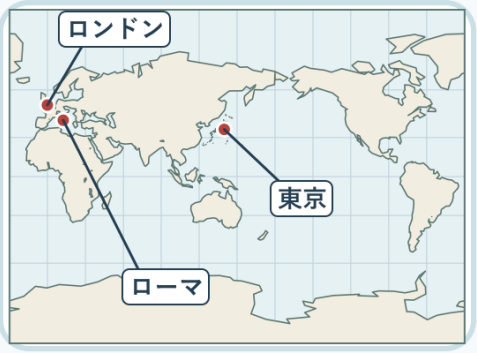
温帯の3つの気候（東京・ローマ・ロンドン）

同じ温帯なのに、東京・ローマ・ロンドンで雨の降り方がちがうのはなぜか



3つとも同じ目もり

- 棒：降水量（右の目もり）
- 折れ線：気温（左の目もり）

統計（作成機関と期間）

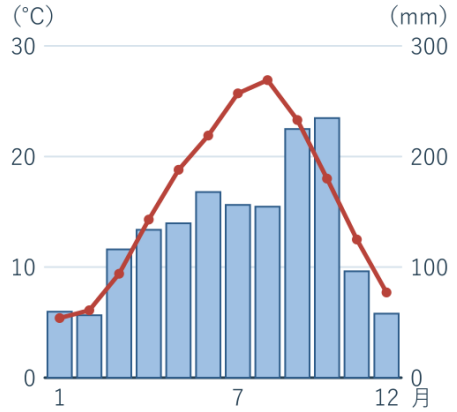
気象庁の平年値
（1991〜2020年の平均）
東京：過去の気象データ検索
ローマ・ロンドン：世界の天候データツール（ClimatView）
ローマは、気温と降水量がそろう近郊の観測点の値

読み取りのポイント

ローマ近郊とロンドンは、年の合計が約640mmで近い。それなのに、月ごとの棒の形はまったくちがう。

東京　温暖湿潤気候

東京（東京都）



年合計 1598.2mm

夏から秋に多く、冬は少ない

なぜ

夏は南東の季節風が、海から湿った空気を運ぶ。梅雨や台風の雨も加わる。

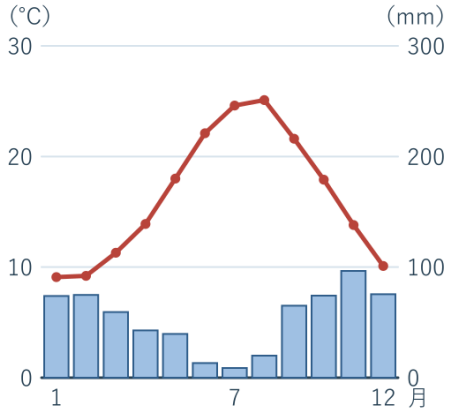
↓

暮らしの例

夏の雨と暑さを生かす稲作

ローマ　地中海性気候

近郊の観測点 PRATICA DI MARE



年合計 643.6mm

夏はとても少なく、秋冬に多い

なぜ

夏は乾いた空気の高気圧におおわれる。冬は低気圧が通って雨が降る。

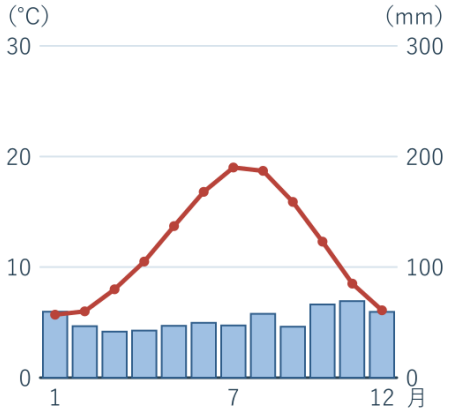
↓

暮らしの例

夏の乾燥に強いオリーブやぶどうを育てる

ロンドン　西岸海洋性気候

ヒースロー国際空港



年合計 633.4mm

1年を通しておだやかに降る

なぜ

偏西風が1年中、暖流の流れる海の上から湿った空気を運ぶ。夏と冬の気温差も小さい。

↓

暮らしの例

牧草を育てる酪農や、作物と家畜を組み合わせる混合農業

※ 理由と暮らしの例は大まかな説明で、同じ土地でも暮らしはさまざま。世界図は3都市の位置を示すもの。